

学習会 (子ども会) だより 12月号 後編
MY SKY 第15号
マイ スカイ

1995年12月19日火曜日発行(毎月第2・第4土曜後の火曜日定期発行)

発行者
板野中学校
学習会
編集・文責:吉成正士

ところで、前号を読んだ乾先生が、すぐさま新聞を持ってきてくれました。そこには、次のようなタイトルで、記事が載っていました。

差別記す史料、公開めぐり論議 古文書や古地図展示考えるシンポ

一律非公開に疑問／条件つけて閲覧も

《1995年12月10日付け：朝日新聞》

やはり、こんな私でも反応があるというのはうれしいものです。乾先生、サンキュー！
これからもよろしく！

今年も残りわずかとなりましたが、みなさんも風邪をひかずに、よい年を迎えてくださいね。



◎あなたならどうする？ (12月8日：学習会主催 江嶋修作先生講演会)

つい先日、久しぶりに「私の先祖は日本猿なんです」の江嶋先生が来町されました。学習会(子ども会)生徒と保護者、教職員に力を伝えるためにです。その講演のことについて、より多くのみなさんに知ってもらうため、少しだけ記しておきたいと思います。

まずは、タイトルになっていることについて。

橋を渡っていたら、川で子どもが溺れ、助けを求めている。さて、あなたならどうするか？

いろんな人がいるだろう。泳ぎが得意で、すぐに飛び込み助ける人。泳ぎが苦手だから、助けを求めに行く人。

しかし、その反面、何もしない人もいるかもしれない。

あなたがその立場になったとすれば、本当にあなたはどうするだろうか？

何もなかった人の中には、「いや、助けたいとは思っていたんだ……」と言う人もいるだろう。けど、実際にそれが何の役に立ったか？溺れているのを知りながら結局は見捨てたんじゃないか！ということです。部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくすためには、やはり行動にうつすこと。行動にはいろんな種類がある。

「これ！」といったものはない。それぞれがそれぞれにできることを行動にうつすだ

◎早つき大成功!! (12月10日:南公会堂祭りの報告から)

南公会堂祭りがありました。意見発表あり、早つきあり、すもう大会ありで、大盛況でした。

板中からは4組の意見発表がありました。みんな自分の本心が語られていて、すごく良かったと思います。

その中でも、南会場学習会(解放子社会)の3年生による意見発表は、良かったですね。発表の方は……でしたが、最後の「がんばろう!おー!と拳を上げたいと思うので、全員起立してください!」には、驚きました。すごく良かったです。意見発表を後ろから応援するのも良かったですし、とにかく動きがあつて、みんなで実際に動いたというのが良かったです!

それと、早つき。「復活の日」という感じでした。若者が早つきをしなくなったことを考えると、すごく画期的な記念すべき1日でなかったかと思います。これをきっかけにして、「板野早つき保存会」を、地域住民が一致団結して結成し、誇りある伝統文化として継承していくことを、心から願います。

中学生!保存会青年部を結成して、いついつまでもつながり、広げつづけるんだぞ!



◎人類を救う先住民の知恵~アイヌの誇り~ (8月31日:徳島新聞から)

部落差別から一步離れて、以下の文章をみなさんに読んでもらいたいと思います。アイヌ民族について載っていた記事です。

アイヌ民族について知らない人もいるかもしれませんね。アイヌ民族は、昔、和人が北海道に侵略するまで、先住していた民族です。歴史の中で、いろんな時代の当時のトップの人たちが北海道を「征伐した」とか「平定した」というふうに記されてきました。しかし、それは支配した側の見方であり、元々住んでいたアイヌ民族からすれば、明らかに「侵略」です。人類の歴史の中では、常に支配した者が、された者を見下げ、奴隷化するということがありました。この場合もそうです。それが、未だに「民族差別」という形で残っています。何のいわれもないのに、いつの間にか侵略を受け、差別を受けてきたわけです。そして、政策の中に組み込まれ、利用されてきたわけですね。このへんについては、部落差別と同じように捉えられると思います。そんな中で、アイヌの文化を守ろうとしている一人の男性アーティストについての記事です。読んでみてください。

なお、北海道の歴史については、社会の先生から詳しく学習してみてください。

アイヌ詞曲舞踏団「モシリ」の音楽と演出を手掛けているアDOI(アトウイと発音)さんは、アイヌ民族を代表するアーティストの一人だ。昭和20年11月、北海道白糠町で生まれたが、自らがアイヌであることを意識したのは10代前半の頃だった、という「アイヌはみんな小さくなって暮らしていた。当時は、民族の自覚や誇りも芽生えていなかった。アイヌは汚くて貧しいというマイナスのイメージしかなかった」と振り返る。

早く同化し和人にならなければいけない。そんな重苦しい雰囲気アイヌの集落を覆っていたという。

「だから、アイヌはいずれこの世から居なくなるんだという気持ちが、正直言っていましたよ」

しかし戦後50年を経て、民族の誇りを回復し、固有の権利保護を訴えるアイヌの活動が注目を集めるようになった。全国の地方議会では「アイヌ新法」の制定を求める決議が相次ぎ、アイヌをめぐる状況が今、大きく変わりつつある。

「昔のことを思えば、アイヌだと胸を張れる現在の状況は想像もつかないこと。やはり戦争に負けて、民主主義と人権を僕らが手にした結果なんでしょうね」

モシリは伝統的なアイヌの音楽とリズムを現代風にアレンジしているのが特徴だ。今春、11枚目のアルバム「イランカラブテ」を出すと同時に、念願だった初の舞台映像をビデオとLDで出した。

「人類はこのままいけば集団自殺する、というのが僕の実感で、新作のテーマにもなっている」

では、人類を破滅から救える手だてはあるのだろうか。「ヒントは先住民のアイヌの中に隠されていると思います。僕らは自然と神と共に生き、地球に迷惑をかけない暮らしをしてきましたから」

「子たくさんですが、別にアイヌの血を守ろうと思ったわけではない」と照れるアDOIさんには、名古屋出身の夫人との間に12人の子どもがいる。「子どもたちがアイヌとして生きるか、同化するかは自由です。けれども、アイヌの精神を引き継ぐ人間になってほしい」と繰り返した。

(1995年8月31日徳島新聞より)

私は、みなさんと同じ中学生の頃「アメリカ大陸の発見はコロンブス」と学んだように記憶しています。けど、ある人にこう言われました。(コロンブスが発見したのは西インド諸島)

「アメリカ大陸には、それよりずっと以前からインディアンが先住民として住んでいた。『コロンブスが発見した』などという歴史は、支配している側の見方で、本当の歴史ではない」

そう言われたときは、「あっ、そうか!!」という感じで、今までの自分の知識が180度変えられた気がしました。

私たちの頭の中には、そういったことが、まだまだ数多く入り込んでいます。立場の違いによって今まで当然のこととして捉えていたことが、根こそぎ変えられてしまうんです。けど、人間としての人権を考えるならば、やはり真実の歴史を学ぶべきだと思います。そういう視点で歴史、社会の学習もしてみませんか?!



リバティおおさか 21世紀展望する博物館 装いあらたに

リバティおおさかが12月4日に、リニューアルオープンする。期待をこめ取材した

リバティおおさか（大阪人権博物館）の基本理念は、部落問題をはじめとする人権問題にかんする歴史的調査研究をおこなうとともに、関係資料、文化財を、収集、保存し、あわせてこれらを一般公開することにより、人権思想の普及に資することを目的としている。

新しくなったリバティおおさかを訪ねた。入口正面で黒田征太郎のみごとな壁画が私たちを迎える。これは12月4日に除幕された。人権を謳う朗ろうとした人間の姿が、目にとびこむだろう。

この博物館の支柱となるのは、なんといっても人権問題にかんする展示だ。導入展示（マルチ画面によるイメージ映像）、テーマ展示（常設展示）、記念室、証言の部屋、識字の作品やポスターなどが展示されている。

常設展示は4つのテーマにもとづいて工夫されている。

- ①被差別部落と身分（日本の歴史のなかで、被差別部落がはたしてきた役割と解放運動について明らかにする）
- ②性と女性（女性、子ども、高齢者についての問題を展示をとおして明らかにする）
- ③民族と列島の南北（在日韓国・朝鮮人、沖縄、アイヌ民族について、歴史を明らかにする）
- ④身体文化と環境（障害者や病人にたいする差別、公害や地球環境破壊などの問題をとりあげる）

展示室は、これまでの2倍以上に拡張され、子どもたちにもわかりやすい説明が施されている。実物資料、実物大資料を多く収集した。

ファンタビュー（立体動画）では中^{りつたいどうが}世^{ちゆうせい}の京都を舞台に「春駒」^{ふたい}「猿回し」^{はるこま}などが
 映^{うつ}しだされ、アイヌのチセ（特有の家）^{とくゆう}がそのまま館内^{かんに}に展示されてあったりする。
 靴^{くつ}作り、セッタ^{もけい}作りの模型は、実物の3分の1の模型として再現^{さいげん}された。ビジュアル
 な会場が満喫^{まんきつ}できる。コーナーごとのビデオでの説明も充^{じゅうじつ}実している。この常設コ
 ーナーは、ガイドボランティアが常時説明をしてくれる。

.....

《1995年12月4日付け：解放新聞》

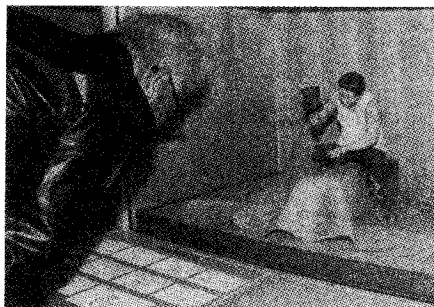
「人権って何やねんやろ」 大阪に拠点が生れた

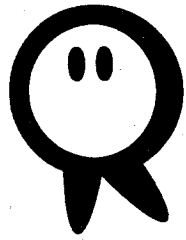
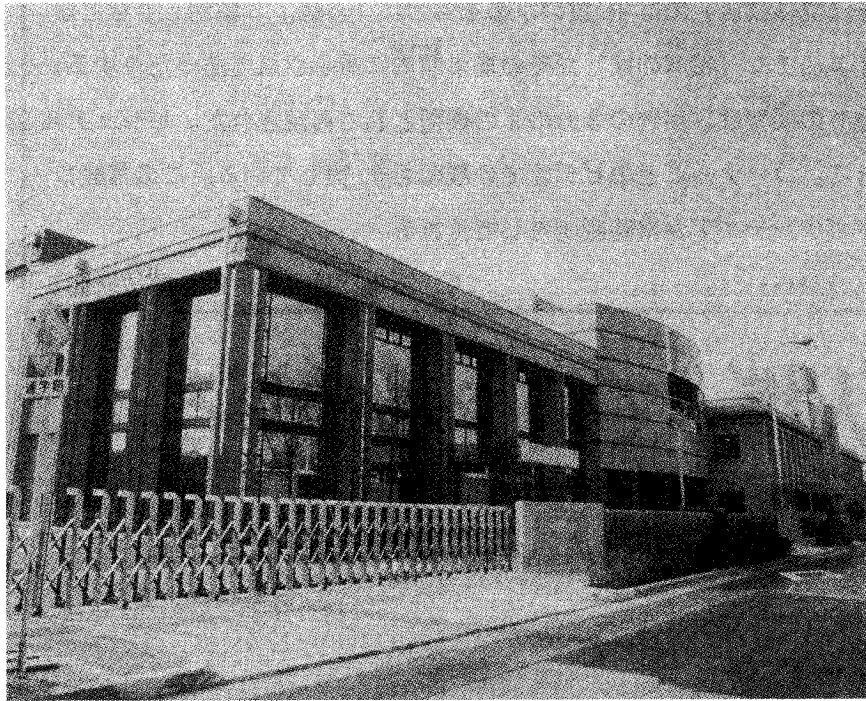


(上) 性と女性のコーナーの入口には女人結界門
 の模型が実物大で展示されているエスプリ
 が効く

(右上) 靴作りの作業を手順を追って展示している

(右下) 差別墓石をみる大谷光真・浄土真宗本願寺
 派門主(左)





リバティおおさかの
新ロゴマーク。大阪
の頭文字「O」をモ
チーフに人間を表す
足をつけたデザイン



◇ ◇ ◇ ^{について} これからの日程 ◇ ◇ ◇

^{せんじつ}先日行われた期末テストの試験監督に行っていたとき、学級担任を受け持っていた頃の
ことを思い出しました。

私が学級担任を受け持っていた頃、試験になると決まって言うことがありました。「い
ずれほとんどすべてのみなさんが板中を卒業していきますが、その直^{ちよくぜん}前には卒業後の進^{しん}
路を決めるための面接^{めんせつ}や試験を、多くの子が受けます。その時に、その時だけ『ええカッ
コ』をしてほしくありません。……」と続くわけです。

大学4年生の時、私は教師になるための試験、教員採用試験^{きょういんさいようしけん}を受けました。学生の頃の
私は、すごくいい加減^{かげん}な人間だったと思います。(今でもその部分は残っていると思いますが……詳しくは三木先生か、東小
の山崎先生に聞いてください)

教員採用試験の時もそうでした。周りの人のほとんどがスーツなんかを着^{まわ}ている中、夏
休みだったということもありますが、口ひげをはやし、襟^{えり}のないダブダブの長袖^{ながそで}シャツ1
枚に、ダブダブの短パン。靴^{くつ}はコンバースのハイカットを素足^{すあし}ではなくといういでたちでし
た。完全におちよく^{かんぜん}ったと思うし、世間知らず^{せけんし}でした。けど、心のどこかで「服装^{ふくそう}なん

可能性の子供のぬれ知底

県立図書館主 児童文学作家・灰谷健次郎さん講演



「子供の持っている可能性は、私たち大人が想像つかないほど深い」と話す灰谷健次郎さん＝県立21世紀館イベントホール

ベストセラー「兎の眼」などで知られる児童文学作家・灰谷健次郎さんを招いての児童文学講演会（県立図書館主催）が、徳島市内の県立21世紀館イベントホールで開かれた。作家になる前に小学校教諭を経験している灰谷さんは「自然の心・子どもの心」と題して講演。そのころに出会った子供たちのエピソードや作文などを紹介しながら「私たち大人はもっと深く子供たちと付き合う必要があるのではないか」と次のように話した。

「自然の心・子どもの心」

定時制高校に通っていたとき、たまたまある小学生の文章を載せた雑誌に出合う機会があった。その小学生は何回も何回も学校の給食費を使い込んでしまっていた。それを隠すためにうそを重ねる。そして行き詰まって家出し、野宿をしたときの気持ちを書いていた。取り返しのつかないことをしてしまったという悔

い、もう一度うそをついていないときに戻りたい、という自分の思いを素直に表現した文章に私は衝撃を受けた。

た。私はすごいと思った。小学生にしてこの子は、苦しい時でもどこか楽しんでいて自分があることを客観的に見つめているからだ。私が児童文学をやるようになったのも根底にこの経験があったからではないか。この文章が私の子供観を決定したといってもいい。後に教師になったとき、子供を見くびらなくてすんだのも、この経験があったからだろう。

梓にはめ込む教育不要

飾られた。

思うように描かせると、こんなに大きな仕事をする可能性があるので、今の学校ではみんなと同じ紙以外を使うことを認めないことが多い。だからそれは認めない先生の方が悪い。みんながそうしているのだから、教師の方があらかじめ子供たちを梓の中にめ込んでしまっている。

また、ある小学生が五年生から六年生にかけて六十数編の文章を書いた。二つを除いてすべて家で飼っている牛について書いた文章だった。六年生としての表記が身に付いていないつたない文章だったが、牛に対してその子が持っている優しい気持ちが伝わってきて、表記のまずさなど気にならなかった。その子供の表記がそれだけいいと言っているわけではないが、表記の指導をする前に、この文章に込められたその子供の魂を非常に美しいと感じることが一番大切ではないかと思う。

今の教育では先に表記の指導をする先生が多い。そうすれば、この子はつぶされてしまっただろう。まず素晴らしいこの子の文章を評価したうえで表記の指導をする。これが逆さまになると教育はゆがんでしまう。子供たちの可能性は私たちが想像つかないほど深い。付き合いは付き合うほど思う。子供がいるからこそ、私たちは絶望のふちに落ちなくてすむ。だから私たち大人はもっと深く子供たちと付き合い、必要があるのではないだろうか。

紙をあけたが、もっと大きな紙が欲しいという。

私も意地になって大阪・長堀橋のクズ紙屋に行つて、輪転機用に使われて残ったロール紙をもらってきた。彼はとても喜んでどんどん絵をかくていった。何しろロール紙に